



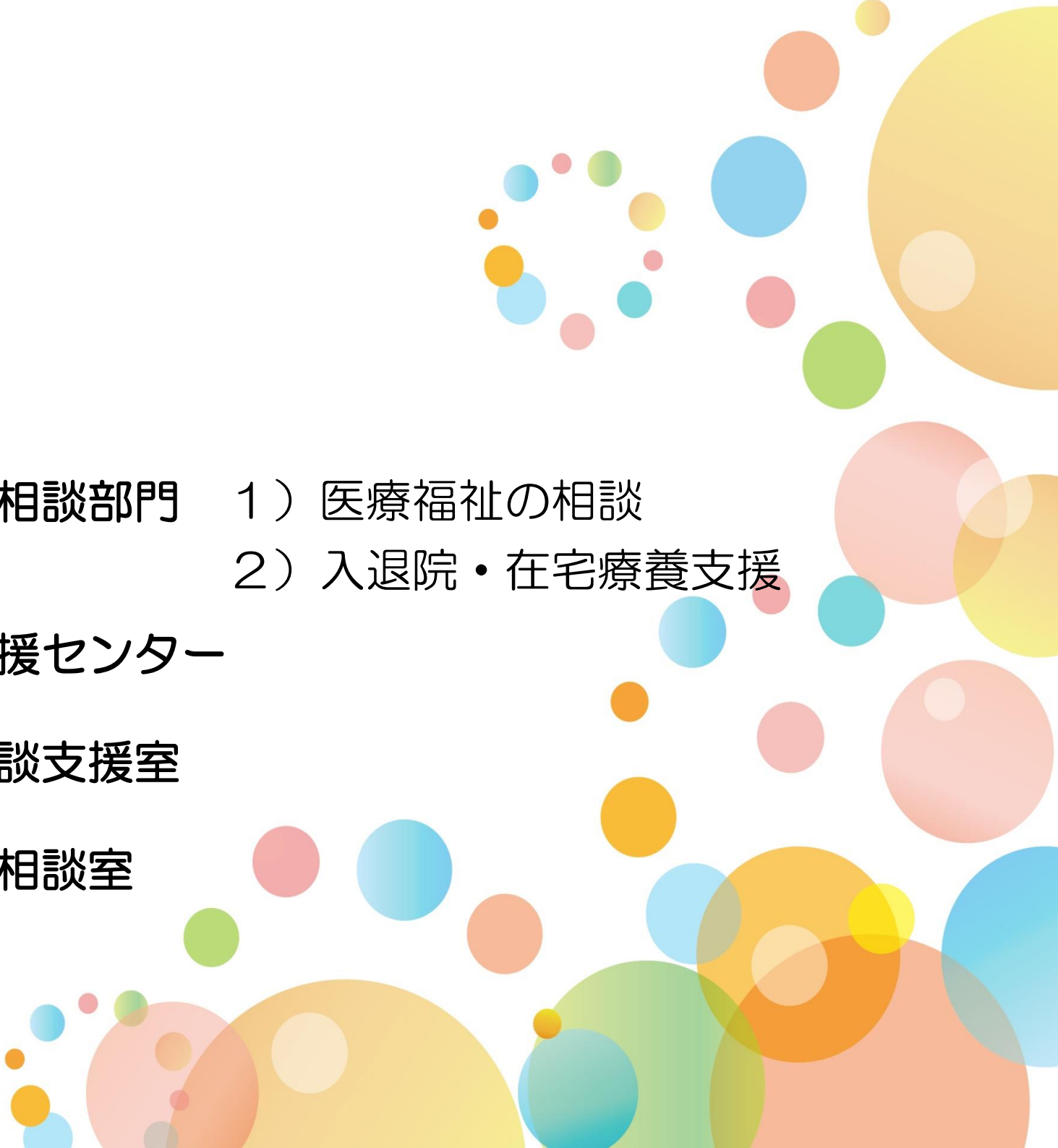
ANNUAL REPORT 2021

浜松医科大学医学部附属病院

医療福祉支援センター

令和3年度 報告書

INDEX

- 1 はじめに
 - 2 地域連携室
 - 3 医療・福祉相談部門
 - 1) 医療福祉の相談
 - 2) 入退院・在宅療養支援
 - 4 がん相談支援センター
 - 5 難病医療相談支援室
 - 6 肝疾患連携相談室
- 

1 はじめに

浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長 安田 日出夫



2021年度は当院医療福祉支援センターを先導し、発展に多大なご尽力頂いた小林利彦先生が務められた最後の年でもあります。本来ならば、小林利彦先生より取りまとめて頂く方が良いのではないかとも思いましたが、年報の報告書作成が年度を越えて5月に行われるため、僭越ながら2022年度よりセンター長を拝命致しました安田日出夫がご挨拶をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック初年度を2020年度とすると、2021年度は、新型コロナウイルス感染症時代の2年目となります。2021年4-5月に新型コロナウイルス感染症の第4波が押し寄せると同時にコロナワクチン接種が始まりました。夏に東京オリンピックが開催されましたが、その頃より第5波となる感染拡大が見られました。デルタ波と呼ばれる変異株が重症化を招いたことでこれまで以上の医療現場の逼迫がみられましたが、その後の収束は意外なほど呆気なく、数週間で感染者は激減しました。2022年1月からはオミクロン株による第6波に見舞われました。入院に至る重症化症例はこれまでよりも少なく、重症化の受け皿となっている大学病院での混乱は見られませんでした。感染者数はこれまでで最も多く、2022年5月において感染者数は減ってきたものの、その推移はとて緩徐で十分な収束には未だに至っていません。

このような状況下の2021年度の業績を見てみると、当院初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数や退院支援数は新型コロナウイルス感染症の第4～6波に関わらず、年間通して安定し、コロナ前の状況に回復しているようにも思えます。これは、新型コロナウイルス感染症対策が病院として機能し、順応できていることで、日常診療を滞りなく行っていることを反映しているものではないかと感じました。これも病院と地域の医療福祉に関わったすべての方々のご理解とご支援によるものとお礼申し上げます。

医療福祉支援センターとしては、2022年1月より先端医療センターが稼働するに伴って、「入院予約・検査説明・栄養相談カウンター」の機能を先端医療センター2階「メディカル・サポート・エリア」へ移し、プライバシーに配慮した個室で対応などサービス向上に繋げています。

本年報では、医療福祉支援センターの各部門における2021年度の実績を整理し、報告させていただきます。関係者の皆様に役に立てることを願いつつ、引き続きのご指導及びご支援をお願い申し上げます。

2 地域連携室

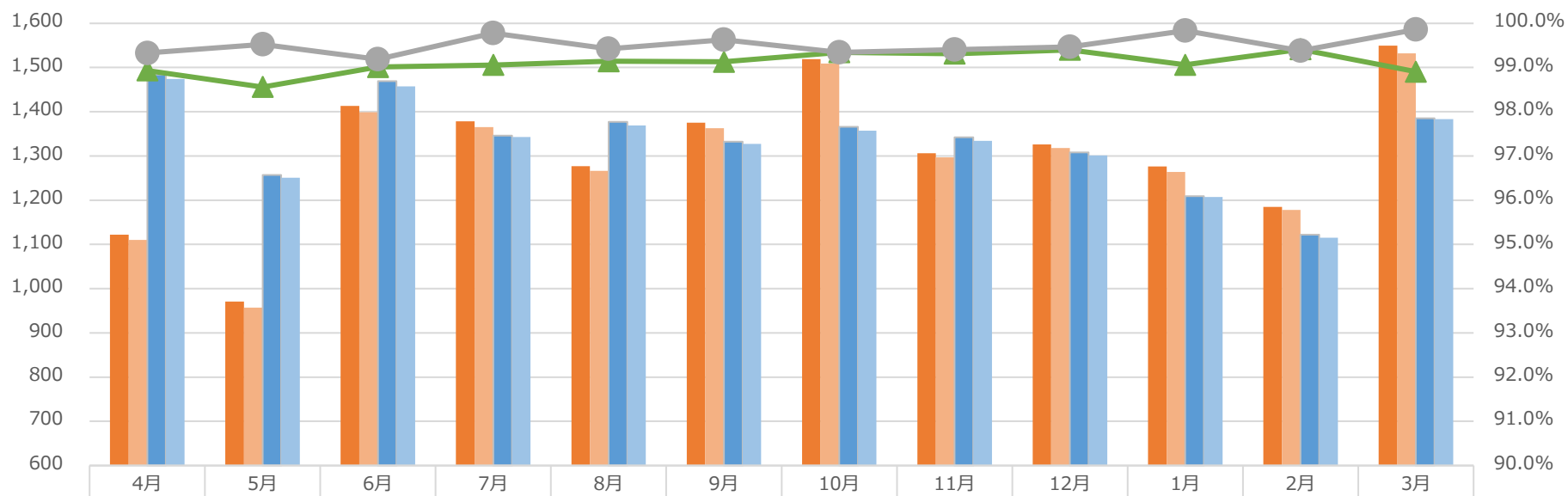


2

地域連携室

1 初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和3年度の初診紹介患者数は年間総数15,997件で、令和2年度の15,697件から300件の増加となった。紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数15,918件と令和2年度の15,558件から360件増加した。地域連携室での事前受付比率は99.5%となり、令和2年度の99.1%から0.4%増加となっている。



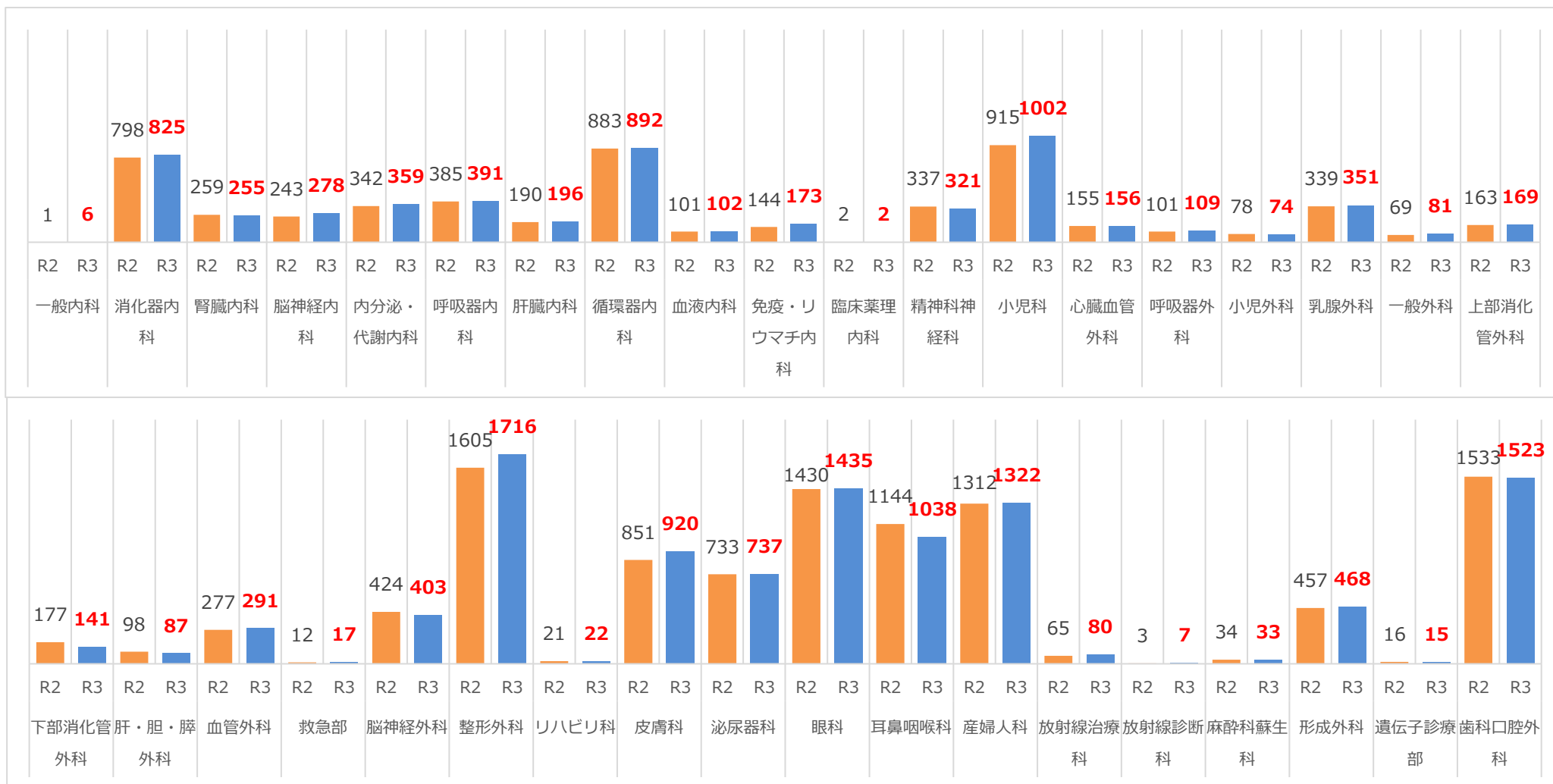
R2年度総数	1,122	971	1,413	1,378	1,277	1,375	1,519	1,306	1,326	1,276	1,185	1,549
R2年度連携室受付数	1,110	957	1,399	1,365	1,266	1,363	1,509	1,297	1,318	1,264	1,178	1,532
R3年度総数	1,484	1,257	1,469	1,346	1,377	1,332	1,366	1,342	1,308	1,209	1,122	1,385
R3年度連携室受付数	1,474	1,251	1,457	1,343	1,369	1,327	1,357	1,334	1,301	1,207	1,115	1,383
R2年度連携室受付%	98.9%	98.6%	99.0%	99.1%	99.1%	99.1%	99.3%	99.3%	99.4%	99.1%	99.4%	98.9%
R3年度連携室受付%	99.3%	99.5%	99.2%	99.8%	99.4%	99.6%	99.3%	99.4%	99.5%	99.8%	99.4%	99.9%

2

地域連携室

2 診療科別紹介患者件数

令和2年度と比較して件数の変化が目立つ診療科としては、小児科が87件、整形外科が111件、皮膚科が69件の増加であった。反対に耳鼻咽喉科は106件の減少が見られた。

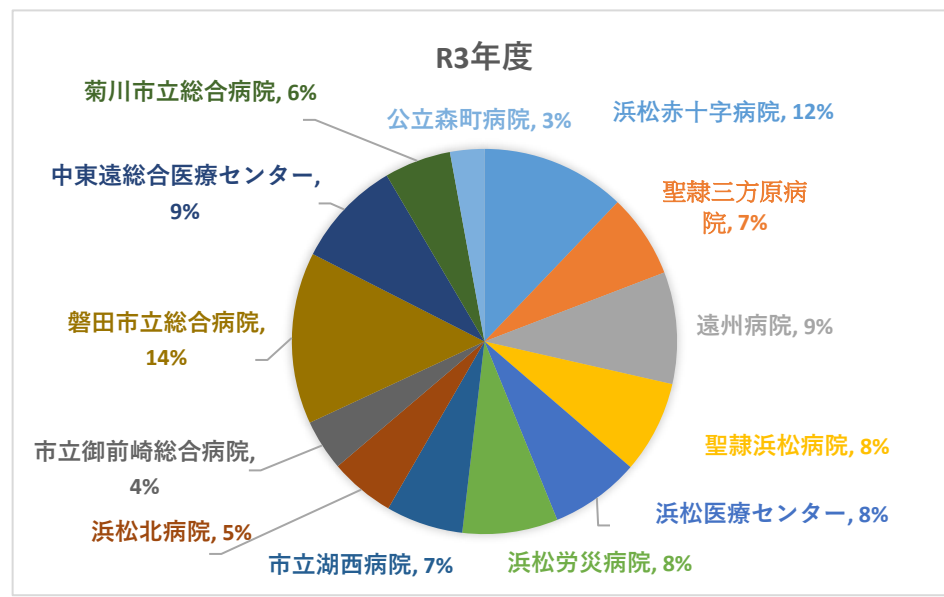
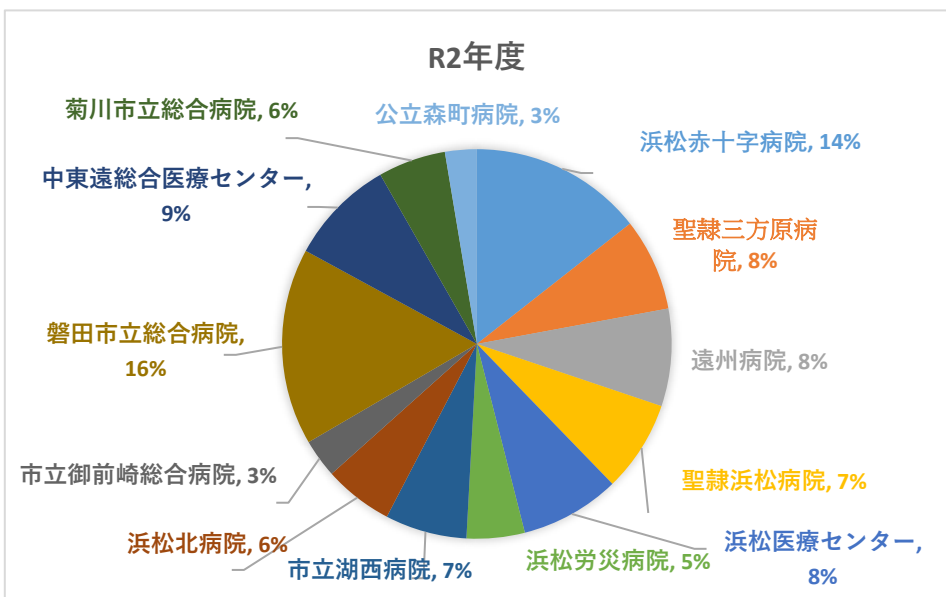
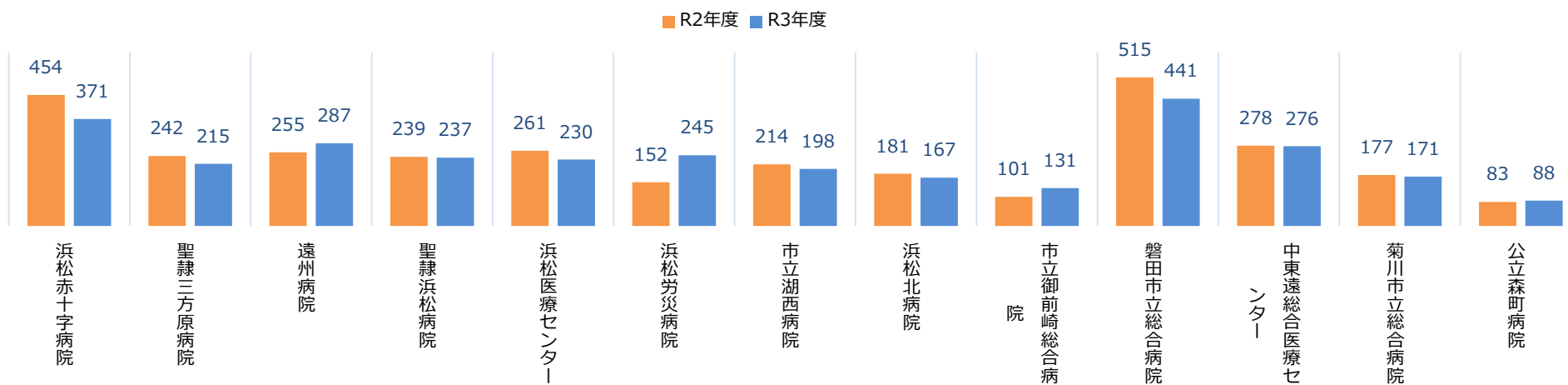


2

地域連携室

3 近隣医療機関からの紹介患者数の比較

令和3年度に近隣医療機関から紹介された患者総数は3,057件で、令和2年度の3,152件から95件減少した。割合で見ると、令和2年度とほぼ変わりはない。



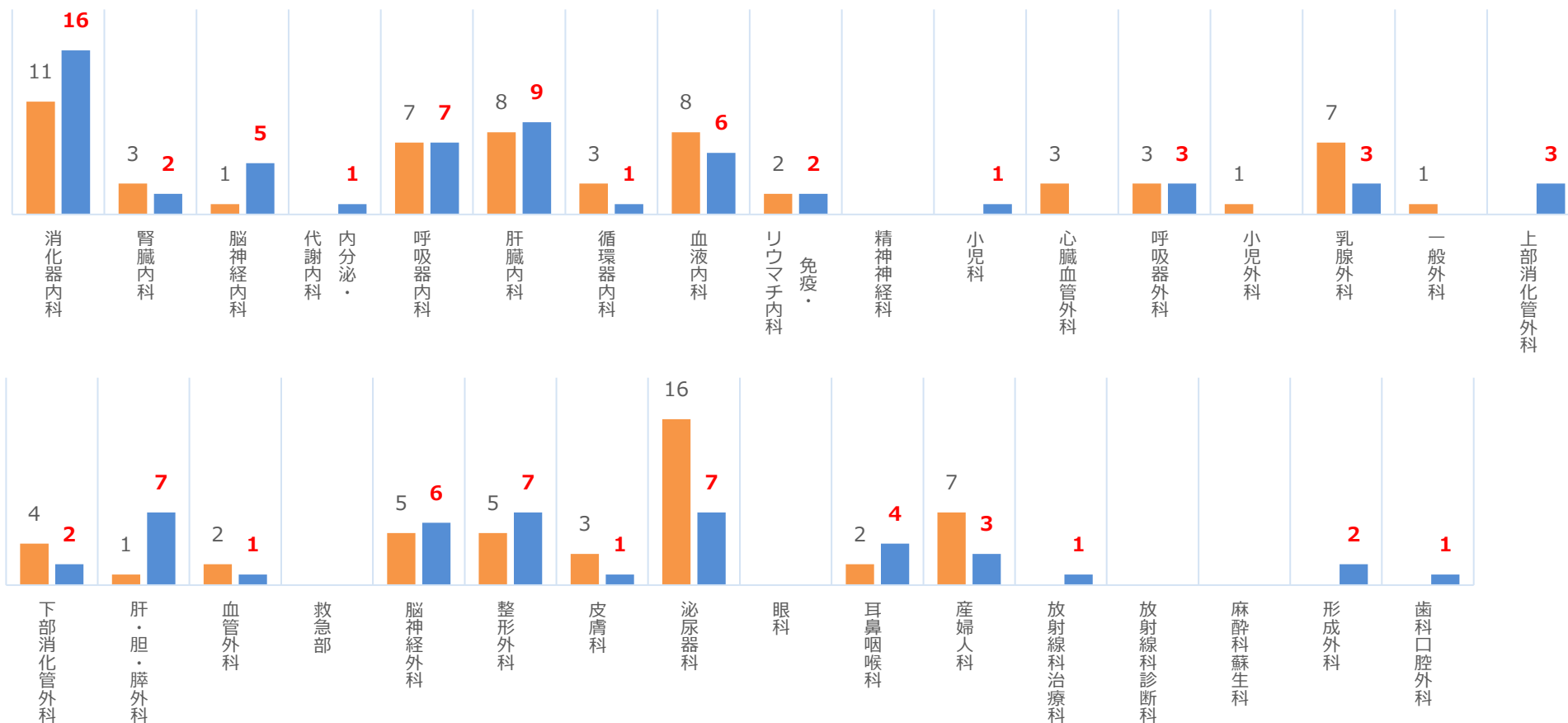
2

地域連携室

4 セカンドオピニオンの実績件数

令和3年度のセカンドオピニオン外来の実績件数は101件で、令和2年度の103件から2件減少した。診療科別に比較すると泌尿器科は9件減少、消化器内科は5件、肝・胆・膵外科は6件増加している。

■ R2年度 ■ R3年度

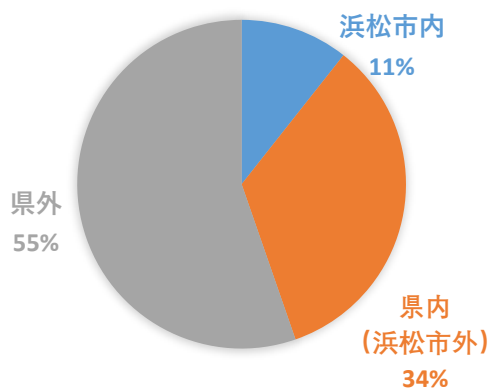


2

地域連携室

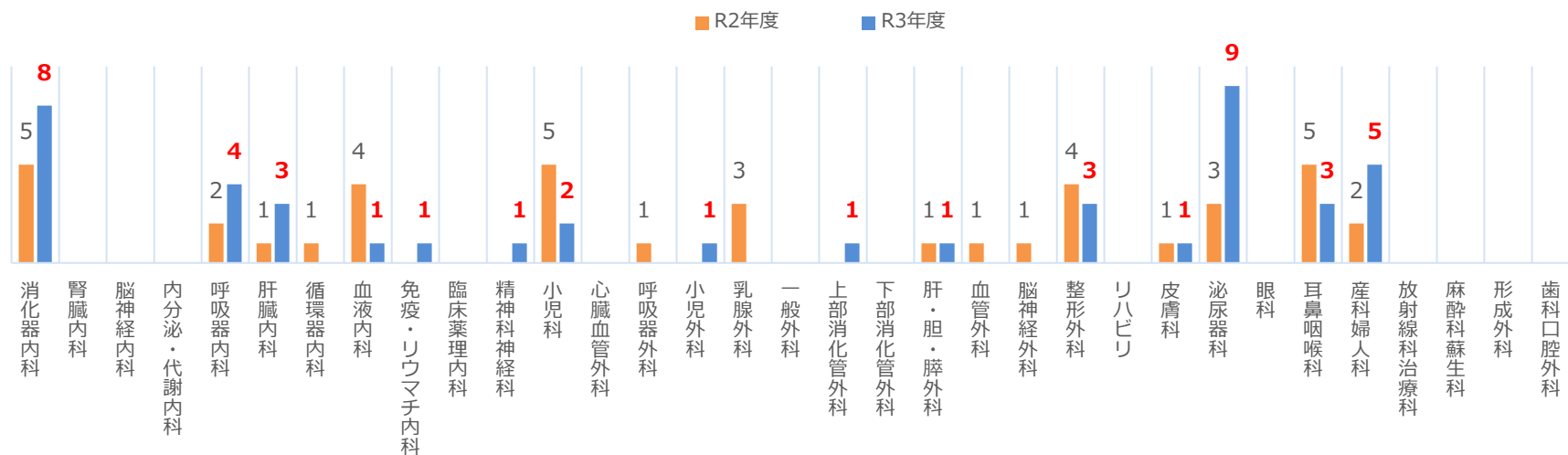
5 セカンドオピニオン依頼件数

令和3年度のセカンドオピニオン依頼件数は47件で、令和2年度の42件から5件増加した。静岡県内の医療機関への依頼件数は21件で全体の45%、県外への依頼件数は26件で55%である。診療科別にみると泌尿器科が6件と最も増加している。



〔依頼先医療機関〕

静岡県立静岡がんセンター	がん研有明病院	菊川市立総合病院
聖隷浜松病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	名古屋第二赤十字病院
国立がん研究センター 中央病院	静岡赤十字病院	愛知医科大学病院
名古屋セントラル病院	湘南鎌倉総合病院	川村病院
愛知県がんセンター	独立行政法人国立病院機構東名古屋病院	聖隷三方原病院
静岡県立こども病院	北辰病院	岡村記念病院
国立大学法人名古屋大学医学部附属病院	国立成育医療研究センター	北里研究所病院
静岡県立総合病院	健康増進クリニック	東京大学医学部附属病院
東京ミッドタウンクリニック	名古屋市立大学病院	メディアートクリニック
板橋中央総合病院	がん研究会有明病院	関西電力病院
三重大学医学部附属病院	聖路加国際病院	洛和会音羽病院
		西村ウイメンズクリニック
		防衛医科大学校病院

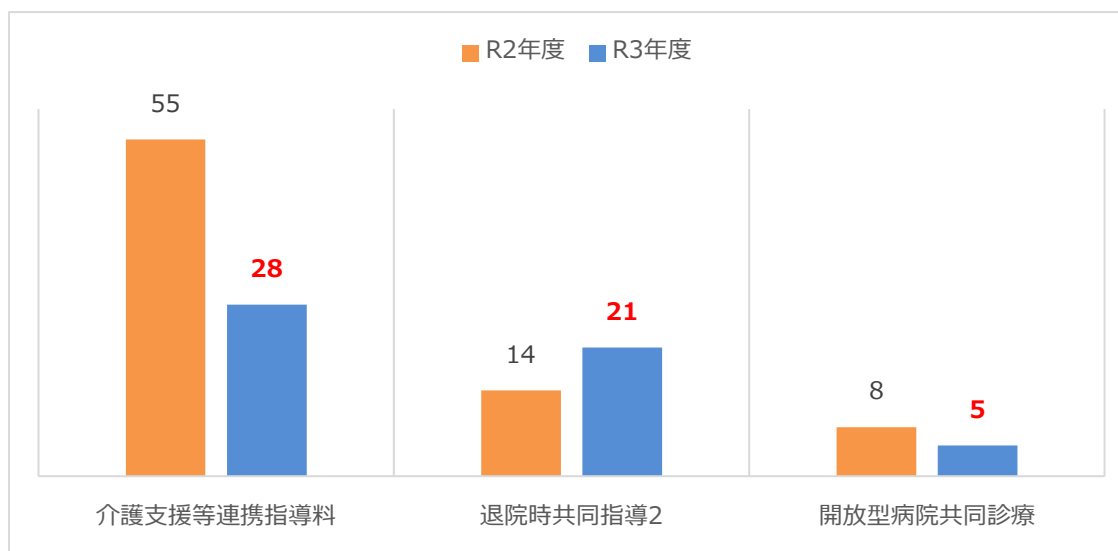


2

地域連携室

6 介護支援連携指導・退院時共同指導2・開放型病院共同診療実績

令和2年度と比較して介護支援等連携指導料の算定件数は27件減少、退院時共同指導料2は7件増加、開放型病院共同診療は3件減少している。



【令和4年度目標】

- ・地域連携室ICT化の推進
- ・地域連携Webセミナーを通じた地域医療貢献
- ・院外カルテ連携による近隣医療機関との連携強化
- ・地域連携パスの推進

3 医療・福祉部門

- 1) 医療福祉の相談
- 2) 入退院・在宅療養支援

1 相談支援件数の推移

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、入院外来ともに患者数の減少に加え、面会、面談等、対面での対応がなかなか行えないなど、今まで通りに業務を行えない一年でした。

新規で相談を受けた数は前年度比7%減の2,331件(表1)と、過去5年間で最も少ない件数でした。先にも記述した患者数の減少が大きな要因になったと思われます。

相談内容は、例年通り転院支援や在宅支援を中心に対応し、次いで制度の紹介や医療費の相談といったことの件数が多くなっています(表2)。昨年度同様、オンラインでの退院支援カンファレンスを行い、開業医や訪問看護とWEB上で情報共有し、退院に繋げることができました。

表1 年度別新規相談件数(件)

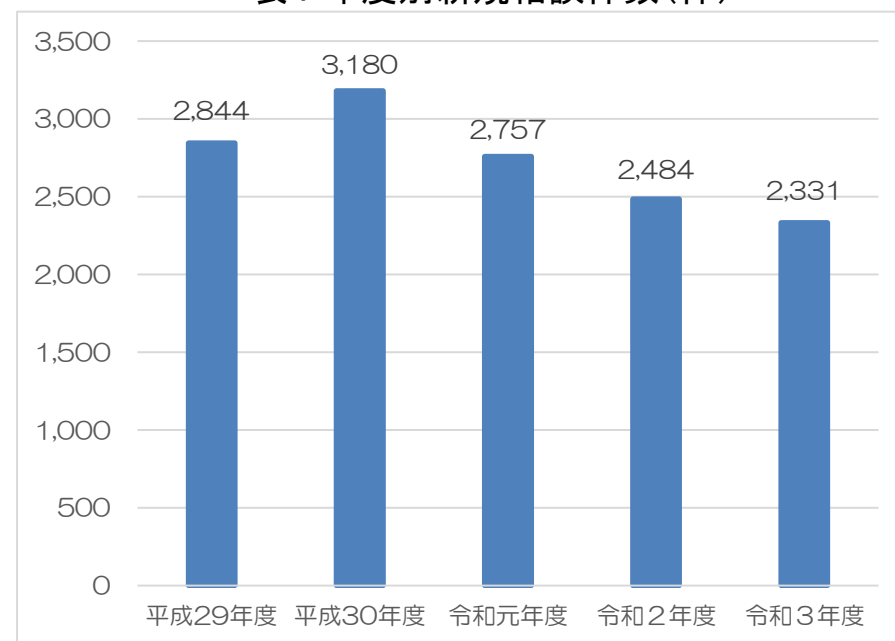


表2 相談内容別件数(件)

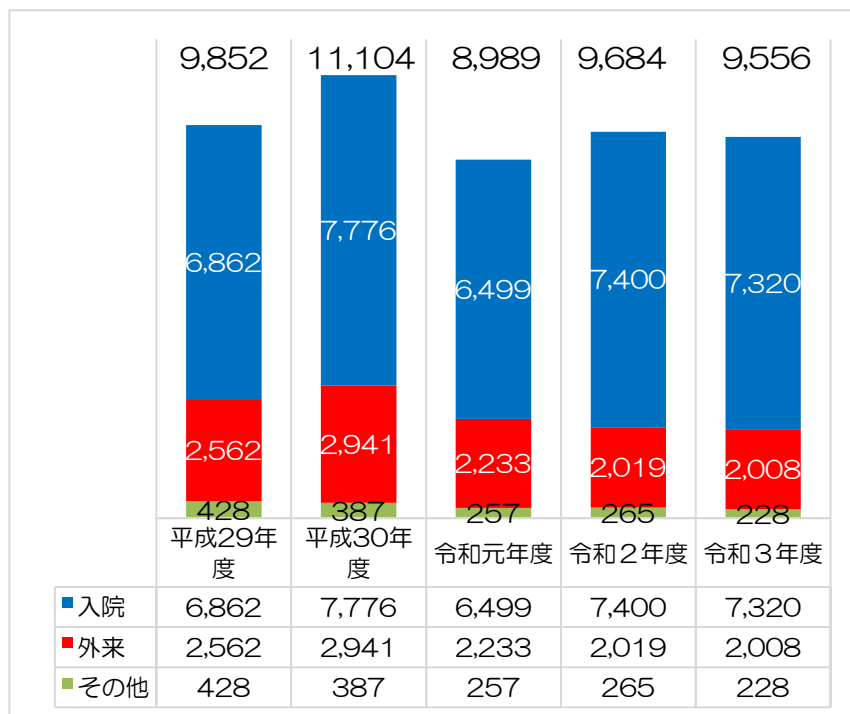
1位 転院支援	717	6位 福祉・介護	67
2位 制度の紹介	336	7位 行政	65
3位 在宅支援	287	8位 治療や医療処置	55
4位 医療費	227	9位 在宅ケア支援	53
5位 当院への受診	80	10位 診療所・病院	48

3-1

医療・福祉部門 医療福祉の相談

対応した回数としては、前年度とほぼ同数の9,556回(表3)となり、1件当たりの相談回数が増加していることが分かります。これは、一人暮らしの方や身寄りがない方、また親族がいても協力が得られない方などの相談が増加しており、退院支援に難渋するケースが増えていることが要因に挙げられます。

表3 年度別対応回数(回)



診療科別の依頼件数(表4)では、脳神経外科からの相談件数が初めてトップになり、次いで整形外科、脳神経内科、消化器内科などが多くなっています。脳卒中地域連携パスを中心に退院支援が行えました。整形外科は術後のリハビリテーション目的の転院などの調整が中心になっています。脳神経外科、脳神経内科、整形外科とも高齢になるにつれ増える疾患です。相談回数で挙げられた、身寄りや協力者がいない高齢の方が、今後ますます増えることが予測されます。他の医療機関や地域としても同じ問題を抱えているとの声を聞きます。地域や行政に働きかけ、有効な対応策を作っていくことが今後の目標です。

表4 診療科別の依頼件数

1位 脳神経外科	1,105	6位 循環器科	608
2位 整形外科	1,091	7位 消化器内科	541
3位 小児科	648	8位 泌尿器科	453
4位 呼吸器内科	644	9位 産科婦人科	363
5位 神経内科	628	10位 上部消化管外科	355

3-1

医療・福祉部門 医療福祉の相談

2 虐待対応

当センターは、院内で発見された虐待の連絡窓口になっています。令和3年8月には、当センターが連絡窓口になっていることを全職員宛にメールにて周知しました。虐待には、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、DVなど様々なものがありますが、家庭の中で行われていることが多いため発見や、虐待の判断が難しい場合が多いです。

当院では児童虐待は対応委員会が設置されており、児童相談所等と対応しています。その他の虐待については、市役所、包括支援センターなど関係部署と対応に当たっています。

〔令和3年度虐待対応〕

- ・児童虐待 25人
- ・高齢者 3人
- ・DV 4人



3 障害年金相談会

社会保険労務士が当院にきて相談に対応する、障害年金相談会を年4回開催し、18名が参加をしました。毎年開催している会のため院内での認知度が少しずつ上がり、外来や病棟の看護師から連絡があり対応するケースもありました。専門家と協力して行う貴重な会であり、有効な情報提供ができるので、来年度以降も継続していきたいと思えます。

〔開催日〕

令和3年4月9日	5名
令和3年7月9日	7名
令和3年10月8日	5名
令和4年1月7日	1名
	18名

障害年金 相談会

相談 無料

病気や事故などで日常生活が不自由になったり働くことが制限されたとき、障害基準を満たしていれば障害年金がもらえます。

年金制度のしくみとは？

受給額の計算方法

障害年金の基準は？

日程 10月8日(金)

時間 13時～17時 事前予約は4名まで
当日受付開始は12時半から

場所 浜松医科大学病院 外来棟1階 医療福祉支援センター

担当 静岡県社会保険労務士会所属 年金相談員

お問い合わせ
医療福祉支援センター TEL 053-435-2772

3-2

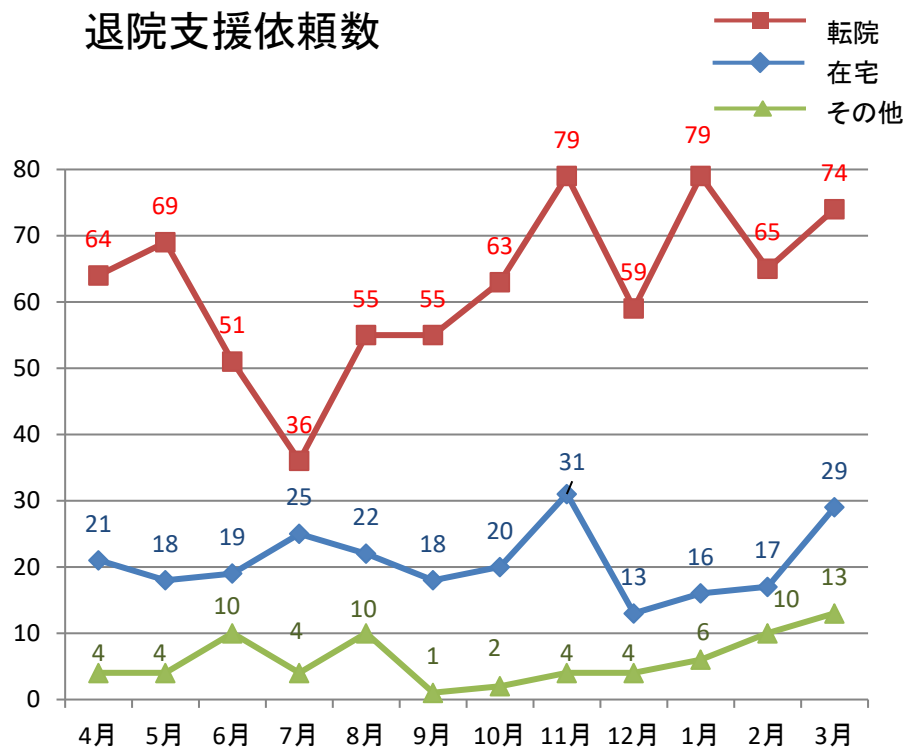
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

1 退院支援依頼と実績

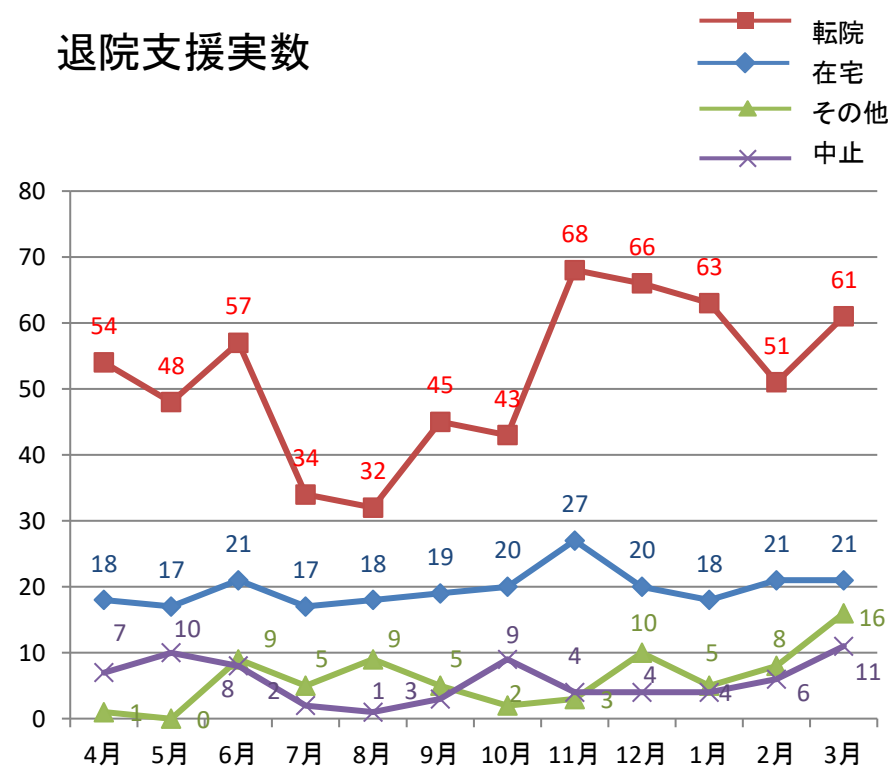
令和3年度の退院支援依頼数は、1070件(令和2年度1036件)で前年度より34件増加した。コロナ禍で、重症患者受け入れ体制の構築をしていたが、過去最多数の退院支援依頼数となった。

退院支援実績は、在宅調整237件(同262件)、転院調整622件(同602件)、その他調整73件(同51件)であった。この割合は昨年と大きな変化はなく、転院調整(その他施設入所等も含める)が全体の7割程度を占めている。

退院支援依頼数



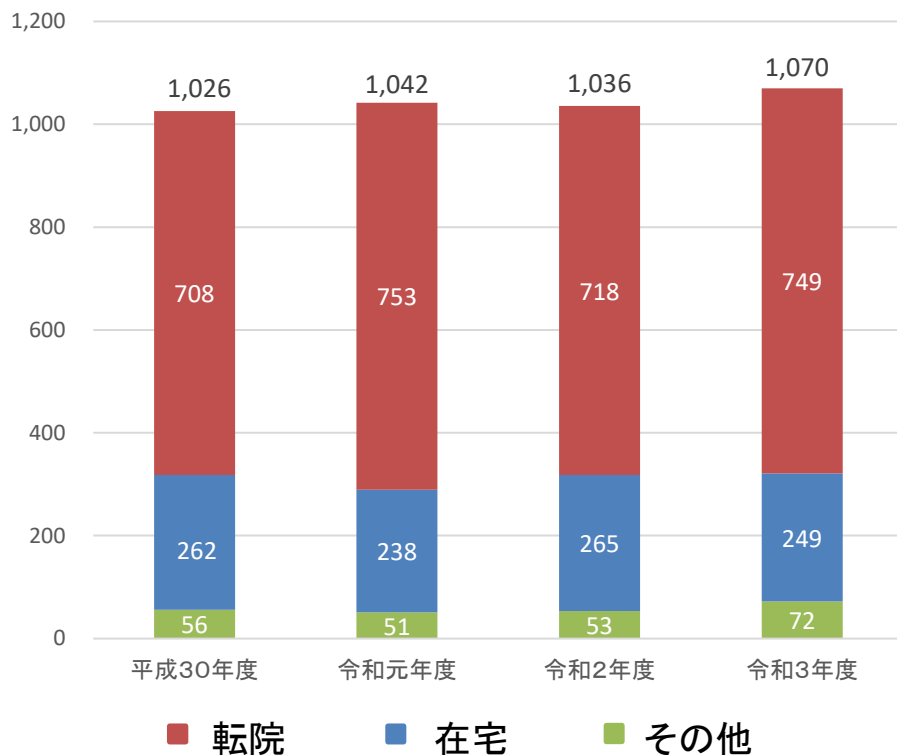
退院支援実数



3-2

医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

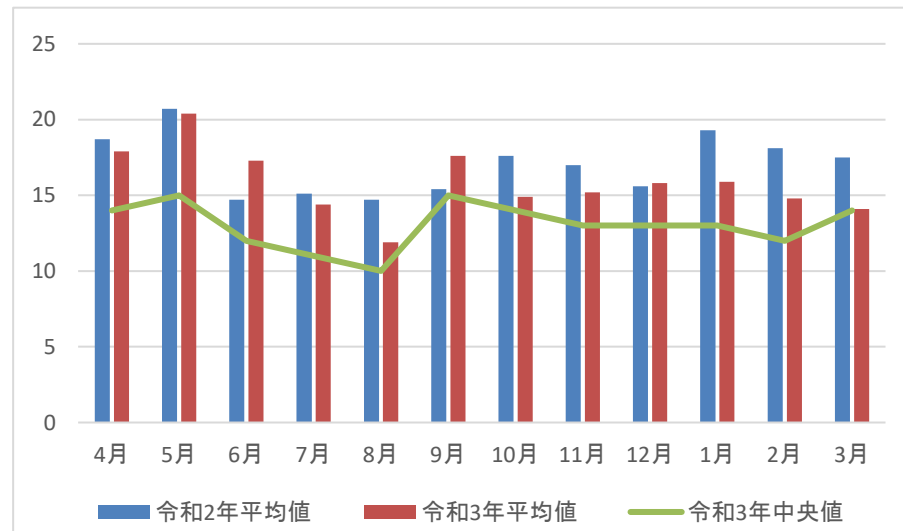
2 退院支援依頼件数の年次推移



退院支援件数は増加しており、平成30年以降は1000件／年を維持している。

当院での急性期治療を終え、回復期病棟や地域包括ケア病棟を有する近隣病院などへ転院するケースが増えており、地域における病床機能分化が進んでいる事が伺える。

3 退院調整日数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年平均値	18.7	20.7	14.7	15.1	14.7	15.4	17.6	17	15.6	19.3	18.1	17.5
令和3年平均値	17.9	20.4	17.3	14.4	11.9	17.6	14.9	15.2	15.8	15.9	14.8	14.1
令和3年中央値	14	15	12	11	10	15	14	13	13	13	12	14

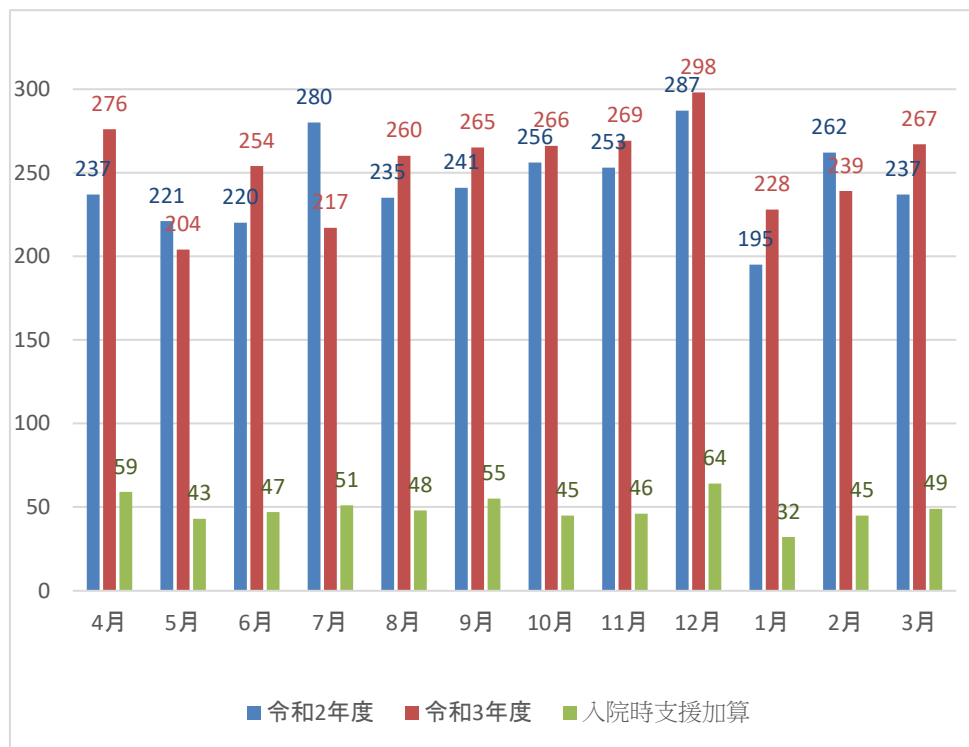
退院支援依頼を受けて介入を開始してから退院までに要した日数を「退院調整日数」と定義する。

今年度の平均調整日数は15.8日、中央値は14日であった。在院日数が短縮している昨今、退院調整が必要な場合は2週間程度を要するため、早めに意思決定や方向性を定めて、退院調整の介入依頼をしていただく必要がある。

3-2

医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

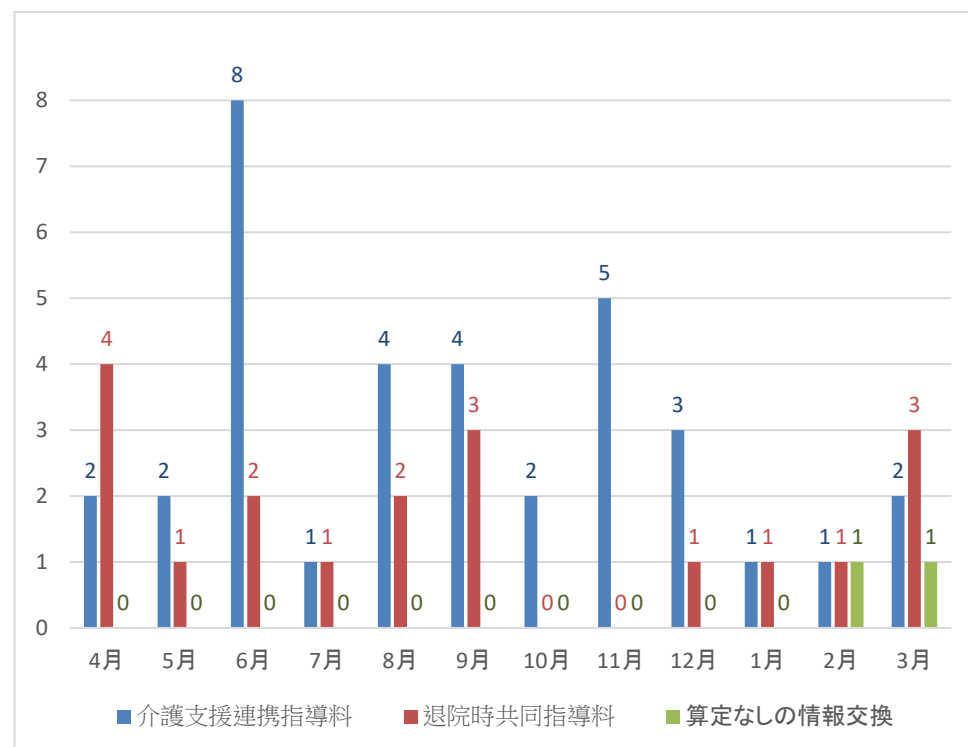
4 入退院支援加算2算定数件数



入退院支援加算2の算定数は3043件で、令和2年度より119件増加している。令和2年度はコロナ禍で3000件を下回っていたが、令和2年度は持ち直した形となっている。

先端医療センターに入院予約カウンターが移転し、全室個室対応となった。プライバシーの保護が強化され、入院前から患者家族に寄り添った介入が出来るようになった。

5 院外・地域との情報交換や訪問

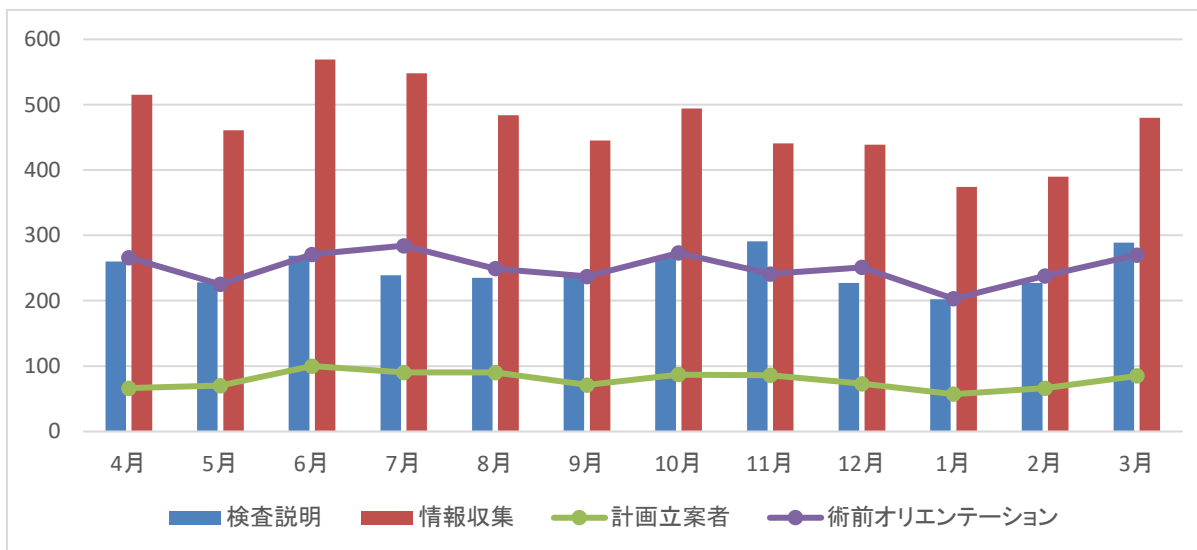


コロナ禍の影響を受け、院外からの出入りなど面会制限が設けられた。退院前カンファレンスはwebでの実施へ移行するなどの調整が図られたが、開催件数は減少した。よって、介護指導連携指導料や退院時共同指導料の算定数も減少した。

3-2

医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

6 入院予約・検査説明カウンター実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査説明	260	228	269	239	235	239	266	291	227	202	227	289	2,972
情報収集	515	461	569	548	484	445	494	441	439	374	390	480	5,640
計画立案者	66	70	100	90	90	71	87	86	73	57	66	85	941
術前オリエンテーション	266	225	271	284	249	237	273	241	251	203	238	270	3,008

令和3年度に入院予約・検査説明カウンターが先端医療センターへ移転し、入院患者への事前の情報収集や、外来患者への検査等の事前説明を実施している。全室個室対応となり予約制を導入したことにより、患者家族が入院や検査前に不安を訴えたり、相談に応じる環境が整えられた。患者家族の社会的背景が複雑化される昨今、早期から課題を見出し、相談・支援の介入へと繋げられるよう、業務の拡大が必要と考える。

【令和4年度目標】

- ・各病棟の退院支援カンファレンスに参加し、退院支援が必要な患者を病棟看護師と共にアセスメントする
- ・複雑化する患者家族の社会的背景をふまえ、意思決定を支援する
- ・シームレスな連携のための情報共有のあり方を検討する

4 がん相談支援センター

4 がん相談支援センター

今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、患者会や相談会を予定通り開催できず。開催しても規模を縮小するなど、直接支援のできる機会が限られてしまった。がん相談に当たった回数は3,195回、月平均では約266回となった(表1)。その内初めて利用した方の相談回数は年間711回。月平均にして約60回となった。今年度がん相談の2割が初めて相談に来る方であり、昨年度と比べると今年度は1割減となった。(表2)

相談件数の減少には新型コロナウイルスの影響が無いとは言い難い。新規相談患者の抽出も必要だが、初回相談後も何か困り事があった時に相談できる場所としても活動していきたい。

表1 受診方法別相談回数 年次推移(回)

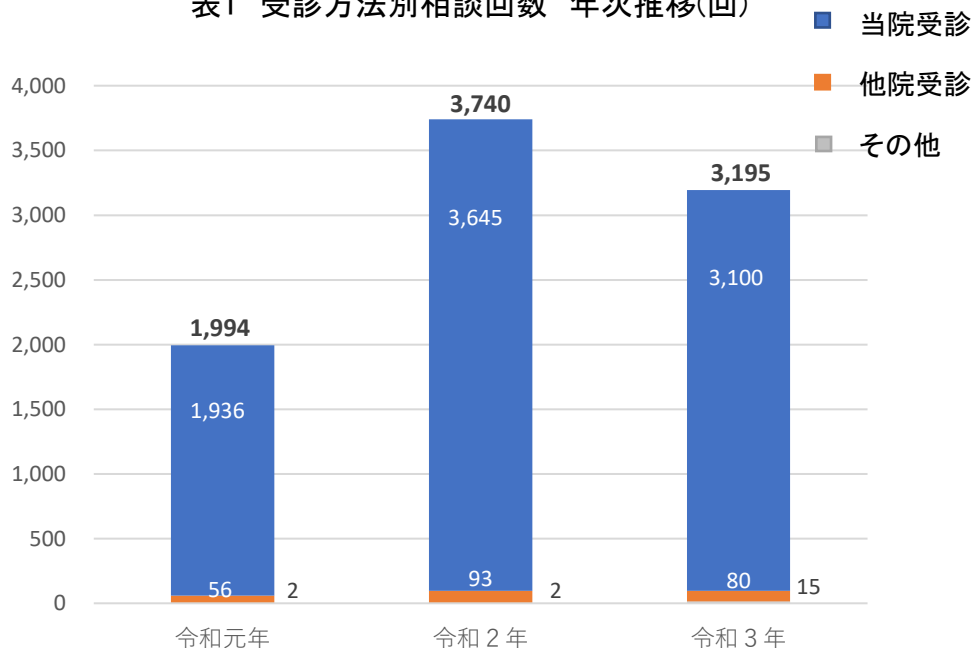
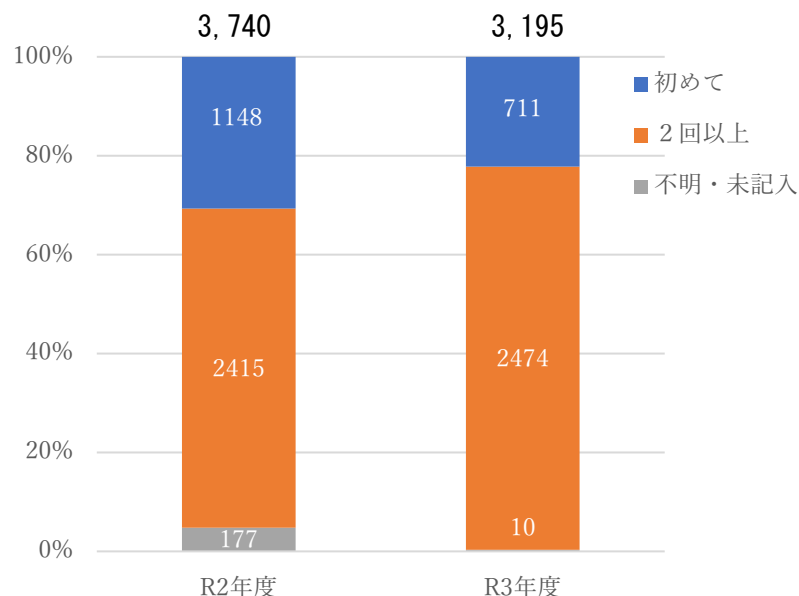


表2 利用回数 前年度比較(回)



4

がん相談支援センター

表3 男女・年齢別相談回数(回)

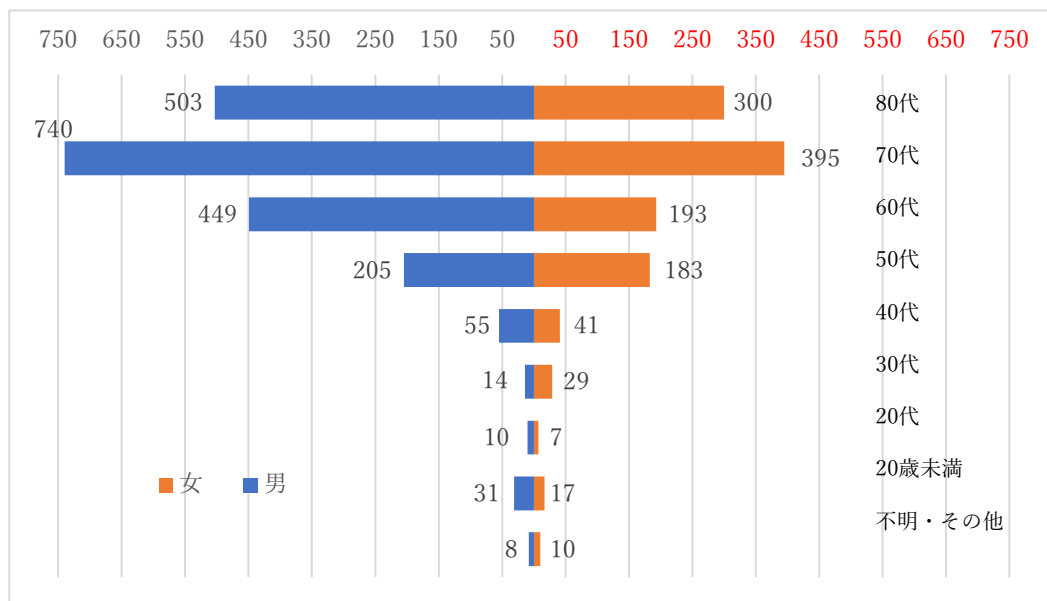


表4 年間 相談内容 トップ10(回)

1 在宅医療	1,221
2 転院	1,025
3 医療費・生活費・社会保障制度	379
4 ホスピス・緩和ケア	116
5 介護	64
6 看護	49
7 不安・精神的苦痛	42
8 医療機関の紹介	41
9 療養	38
10 仕事・就労	30

男女、年齢別相談回数では、70代以上の男性についての相談が多くなっている(表3)。

相談内容では在宅医療、転院、医療費・生活費・社会保障制度の順で多くなっている(表4)。

入院中の方への在宅・転院調整だけでなく、外来で放射線治療や化学療法にかかるお金を心配する方の相談が多い印象。

今後も積極的に支援を続けていきたい。



4 がん相談支援センター

乳がん患者会スノードロップ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、1月開催分は3月に延期。
4月、7月は30分時間短縮をして開催した。

- ・ 4月28日 「おいしいね、#おうちごはん」 栄養部管理栄養士 位田文香氏
- ・ 7月28日 「なんでもフリートーク」 乳腺外科 小倉廣之医師
- ・ 10月27日 「すっきりヨガ」 牧野あずみ先生

就労相談会

静岡県産業保健センターの、治療と仕事の両立支援についての専門家である両立支援専門員と協力し、無料の就労相談会を企画している。今年度は相談会への申し込みは無く、開催をしていない。がんに限らず随時希望のある場合は、患者さんを両立支援専門員へ紹介している。がん治療が通院治療中心になってきているため、完治してから職場復帰するというより、治療をしながら就労継続していけるよう支援している。



4 がん相談支援センター

ハローワーク出張相談会

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止。直接ハローワークで相談していただくよう案内し、必要があればハローワークに情報提供を行うようにしている。長期療養者の新規就労先を探すため、ハローワークに配置されている就労支援ナビゲーターが病院に来院し、実際の求人票を見ながら相談にあたっていた。治療を続けると医療費もかかる。また就労していることが支えになることがある。新規就労はハードルが高いが、ハローワークと協力し継続していきたい。

浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本的に毎月浜松市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを行っている。

10月に浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会（患者会、社会保険労務士、行政、企業、医療機関参加）を開催。11月には、静岡県労働局と協力し、オンラインにてがん患者の治療と就労の両立支援セミナー（市内企業を中心に医療従事者、福祉施設の54名が参加）を開催。外来治療が中心となっていることもあり、企業からの関心も高まっている。今後も両立支援により一層力を入れていく方針である。

R3.10.12(火) 浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会

R3.11.18(木) がん患者と就労の両立支援セミナー

R4.2.25(金) 医療従事者向けアピアランスケア講演会

5 難病医療相談支援室



5

難病医療相談支援室

令和3年度 難病医療相談支援室目標

- ・1 難病医療相談支援室の業務を明確化し整理する
- ・2 新しい生活様式に対応し研修会を継続、充実させる

【評価・反省】

- ・1 神経・難病センターの実質的な開設は令和4年度であり、今後どのような連携を持つのか現時点では未定だが、必要時に協力できる体制をとっていく。相談業務と研修開催業務は今後も継続していく。
- ・2 COVID-19の影響で本年度もオンラインでの講習会開催となった。動画配信やソーシャルネットワークサービスの知識を持ち合わせていなかったため、昨年度は開催までに時間を要したが、本年度は当院の医事課に協力を得てスムーズに動画配信できるようになった。オンライン研修は参加しやすい利点があるため、今後も継続してほしいという要望が多い。一方で、対面研修をリアルタイムで動画配信するいわゆるハイブリッド開催を希望する意見は意外に少ない。これは動画視聴の時間的余裕の有無が影響しており、一定期間であればいつでも視聴できる手軽さを望んでいると感じる。ハイブリッド研修は技術面や予算面でサポートを受けないと困難な状況であり、デイレイ配信でも講演動画の撮影や編集等、不慣れな作業が多い。

〔活動実績〕

研修会主催	難病医療従事者研修会 (オンライン)3回開催
難病ニュースレター	第23・24・25号発行
難病就労相談会	6/11、11/26開催
事例検討会出席	5回
研修会参加	・PDナース ・ALS緩和ケア ・就労 ・神経難病の療養先 ・移行期医療
学会参加	・難病看護学会 ・難病医療ネットワーク学会

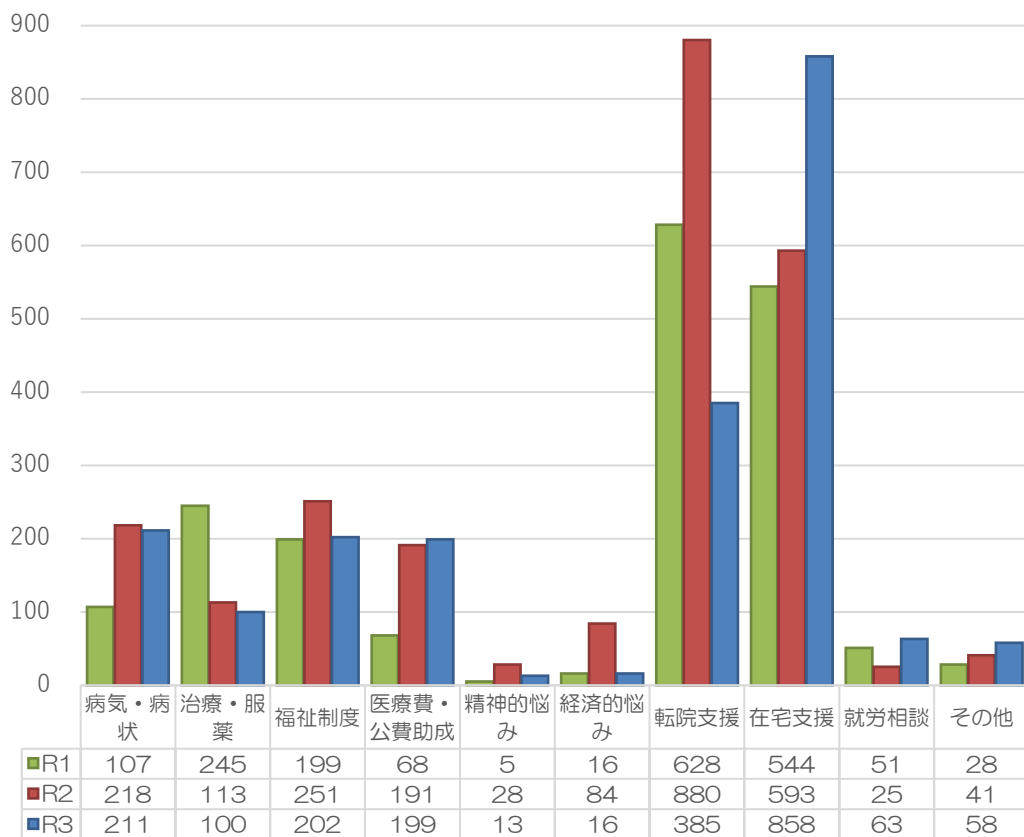
感染状況の予測ができないため来年度も研修会方法を模索していくことになるだろう。

5

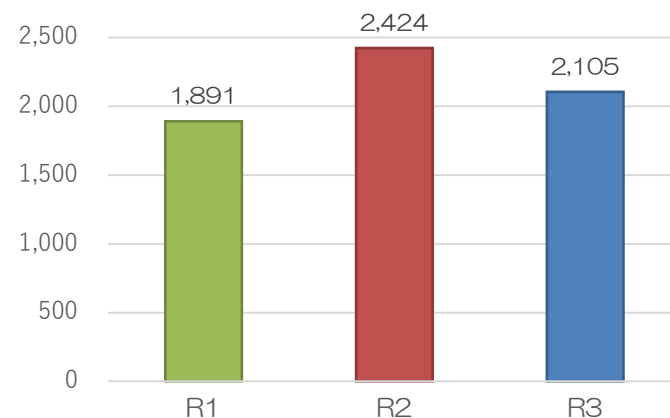
難病医療相談支援室

難病相談

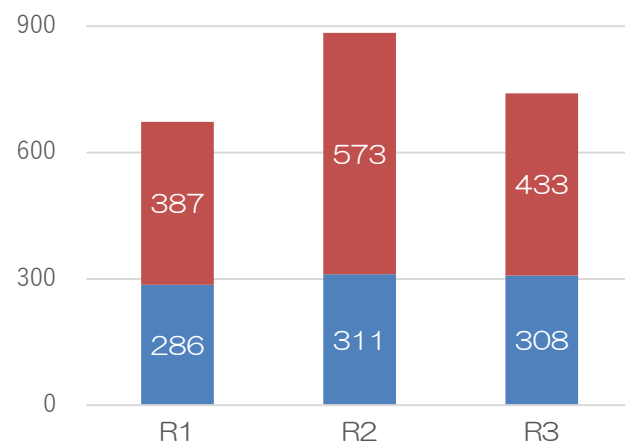
内容別相談回数（回）



相談回数（回）



新規・再来相談件数（件）



1,891回
2,424回
2,105回

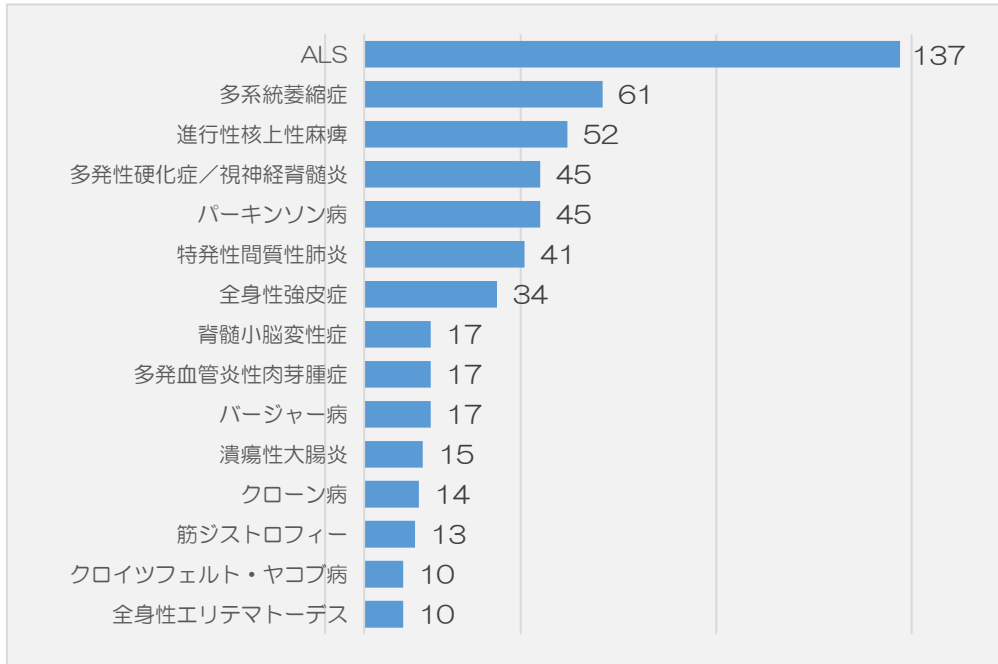
相談回数は、前年度比339件減・86.1%。
転院支援は前年度比43.8%、在宅支援は前年度181%
と転院支援が大幅に減り、在宅支援が増えている。

■ 新規相談 ■ 再来相談

5

難病医療相談支援室

相談疾患（件） ※上位15疾患



性別・年齢別相談者数（人）



少数相談疾患

ACTH単独欠損症	原発性抗リン脂質抗体症候群	全前脳胞症
IgA腎症	原発性免疫不全症候群	高安動脈炎
IgG4関連疾患	顕微鏡的多発血管炎	低ホスターゼ症
T細胞性リンパ腫	好酸球性副鼻腔炎	点状軟骨異型成症
悪性関節リウマチ	後縦靱帯骨化症	天疱瘡
アルポート症候群	後天性下垂体機能低下症	特発性血小板減少性紫斑病
アンジェルマン症候群	抗リン脂質抗体症候群	特発性血栓性
一次性ネフローゼ症候群	再生不良貧血	特発性拡張型心筋症
エーラス・ダンロス症候群	再発性多発軟骨炎	特発性多中心性キャスルマン病
遠位型ミオパチー	サルコイドーシス	特発性大腿骨頭壊死
黄色靱帯骨化症	シェーグレン症候群	突発性難聴
黄斑ジストロフィー	色素性乾皮症	脳幹部腫瘍
横紋筋肉腫	自己免疫性肝炎	脳腫瘍
オスラー病疑い	自己免疫性溶血性貧血	脳性麻痺
化学物質過敏症	若年性特発性関節炎	パーキンソン症候群
歌舞伎症候群	重症筋無力症	パークスウェイバー症候群
間質性膀胱炎	神経線維腫症	ハンチントン病
気管軟化症	神経ベーチェット	皮膚筋炎／多発性筋炎
急性リンパ性白血病	進行性ミオクローヌてんかん	封入体筋炎
急速進行性糸球体腎炎	進行性白質脳症	ベーチェット病
巨細胞性動脈炎	尋常性天疱瘡	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多発性運動ニューロパチー
巨大静脈奇形	頭蓋内胚細胞腫瘍	慢性疲労症候群
筋萎縮性側索硬化症	脊髄性筋萎縮症	未分化大細胞リンパ腫
筋強直性ジストロフィー	前駆B型細胞急性リンパ性白血病	網膜色素変性症
筋強直性筋ジストロフィー	全身性アミロイドーシス	もやもや病
クロイント・カナダ症候群	先天異常症候群	ライソゾーム病
血液難病	先天性ミオパチー	両大血管右室起始症
血球貧食性リンパ組織球症	先天性リポイド副腎過形成症	不明
結節性多発動脈炎	先天性表皮水疱症	
結節性硬化症	先天性無痛無汗症	

5 難病医療相談支援室

難病医療従事者講習会(Web講習)

※YouTubeにて限定配信

	演題	講師	参加施設数	参加者数	再生回数
第1回	ACP(人生会議)とは何か? ～ACPに基づく難病患者への支援～	まちの看護相談室り～いふ(Live) 代表 番匠 千佳子 先生	52	261	815
第2回	障害者雇用状況とハローワークの障害者 就職支援について	静岡公共職業安定所 職業紹介第3部門 紹介係 伊藤新先生	19	69	253
	難病患者の就職支援について	静岡公共職業安定所 難病患者就職サポーター 塩沢志津先生			
第3回	息切れや酸素とともに生活する人を支える ～看護師が行うセルフマネジメント支援～	浜松医科大学医学部附属病院 看護部 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 鈴木麻希子先生	27	113	352

難病ニュースレター

第23号 2021.6発行

第24号 2021.10発行

第25号 2022.1発行

- ・神経・難病センターに新センター長着任
- ・難病医療従事者講習会について
- ・難病患者災害連絡協議会について
- ・令和3年度第2回難病医療従事者講習会について
- ・難病患者就労サポーターについて
- ・難病医療相談支援室の新室長を迎えて
- ・難病医療従事者講習会について
- ・講習会アンケート(難病患者の就労支援)より
- ・冊子のご紹介 等



5

難病医療相談支援室

難病患者さんのための就労相談会

令和4年1月28日(金)開催
難病患者さんのための
無料 就労相談会

治療をしながら仕事ができるのかな？
こんな症状があるけど、できる仕事はあるのかな？

まずは、相談はじめてのステップ

相談に病名を伝えたい方が多いのだから...

ハローワークの職員と看護師がご相談を伺います
当院受診中の患者さんに限らせていただきます

相談の結果、具体的な就労支援に移行する場合は、
浜松市ハローワークへ行っていただくことになります

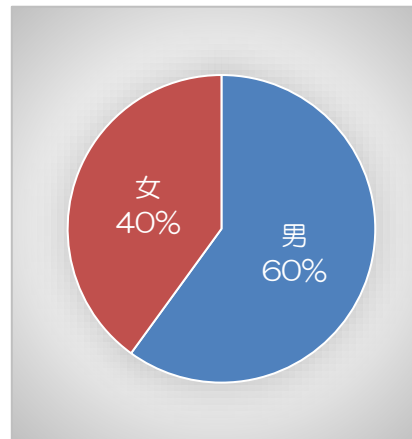
日時: 令和4年1月28日(金)
13:30~16:30
予約制(お1人1時間程度)

【お問合せ先】
浜松医科大学医学部附属病院
難病医療相談支援室
TEL: 053-459-2477
(平日 8:30 ~ 16:45)

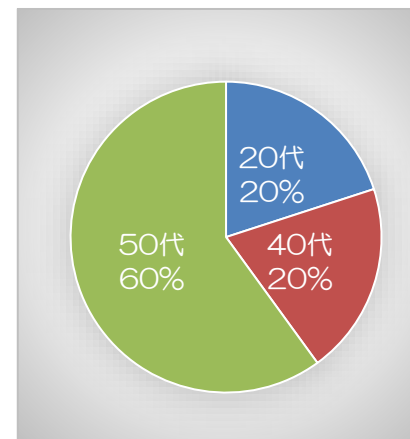
場所: 浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター(外来棟1階)

2017年より開催を始め、今年度で5年目となった。
院内テロップ等で周知され、相談の予約もコンスタントに入るようになったが、COVID-19感染拡大により開催中止となったり、予約をキャンセルされる患者さんもあった。

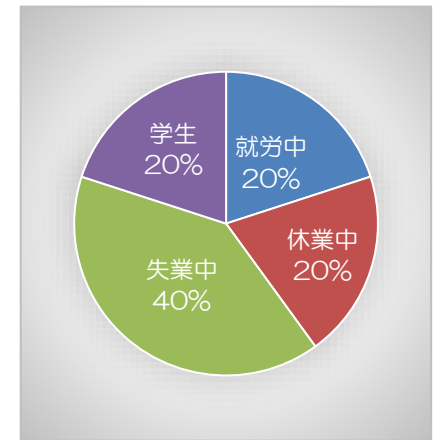
男女比



年代



就労状況



【開催日】

- 2021年6月11日
- 2021年8月27日※
- 2021年11月26日
- 2022年1月28日※

※緊急事態宣言発令等の為、中止。

【相談疾患】

- ・潰瘍性大腸炎 (消化器系)
- ・クローン病 (消化器系)
- ・自己免疫性肝炎(消化器系)
- ・顕微鏡的多発血管炎(免疫系)
- ・エーラス・ダンロス症候群(皮膚・結合組織系)

5

難病医療相談支援室

地域連携事業(社会貢献事業)

【人工呼吸器用発動発電機・外部バッテリー所持点検啓発活動】

2018年に静岡県内の訪問看護ステーションを対象とし『在宅人工呼吸器の装着者数と予備電源所持者調査』を行った。結果より在宅人工呼吸器使用者が必ずしも予備電源を所持しているとは限らないことが判明。そこで啓発グッズとして予備電源の用意点検を呼びかける内容を盛り込んだファイルを作成し、県内の訪問看護ステーションのうち人工呼吸器利用者を多く担当する15施設に郵送し、ファイルの使い道に関しては送付先に一任した。



【令和4年度目標】

- ・ 難病法の見直しに伴う制度の変化に注意し情報を収集する
コロナ禍で延期されていた難病法 改正が令和4年度を目途に行われる予定で、難病医療費助成申請方法のオンライン化と医療費助成制度の対象とならない患者の登録について検討を予定されている。新たな規約やそれに伴う業務が発生する可能性があるため注目していく必要がある。
- ・ オンライン研修を継続し、よりレベルアップした研修内容を目指す
感染状況に関わらず、受講者の要望に沿って本年度もオンライン研修を継続するが、動画視聴のみに留まらず互いに交流が持てるような研修内容にしていきたいと考える。状況に合わせて、西部・中部・東部地区など小規模で開催する方法も検討していきたい。

6 肝疾患連携相談室



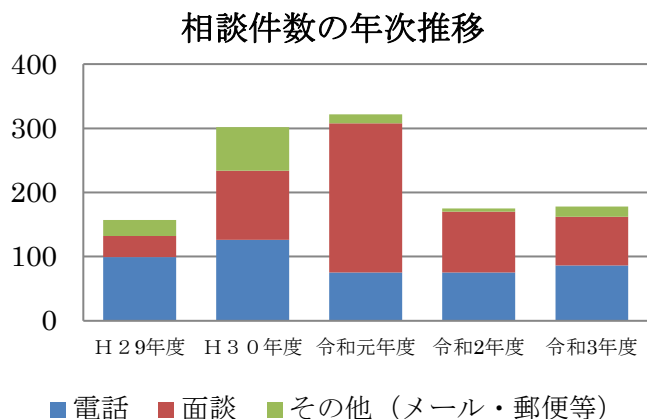
6

肝疾患連携相談室

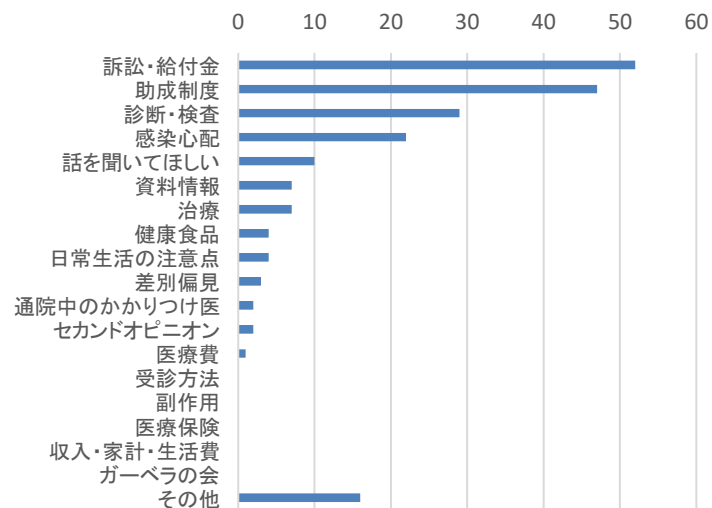
静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

1 相談支援事業

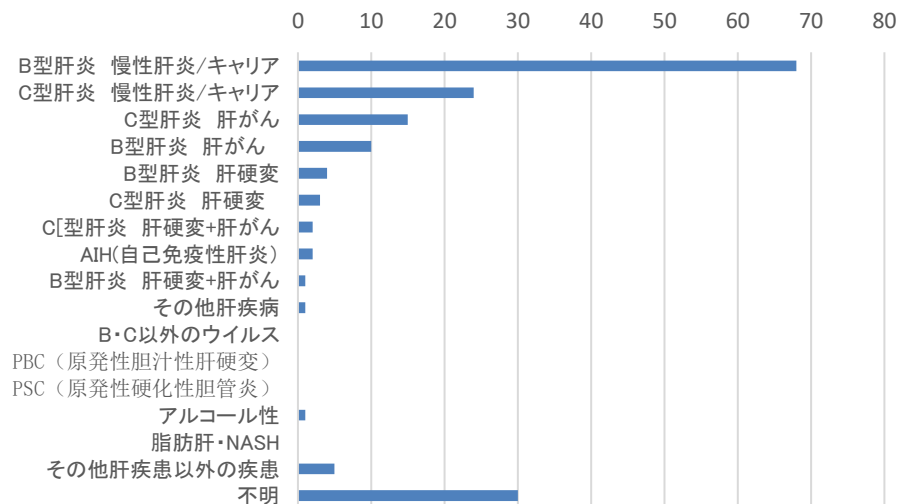
令和3年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間178件（電話86件、面談76件、その他16件）であった。肝炎給付金の相談が52件、肝炎助成制度の説明・相談が47件であった。



令和3年度 相談内容別件数



令和3年度 疾病別件数



2 肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、令和3年度は順天堂大学医学部附属静岡病院が企画・運営し連絡協議会を開催した。

参加者:50名

6

肝疾患連携相談室

3 医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

【1】 医療従事者を対象とした研修会等

1	2021.6.3(木)	静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会
		参加者: 医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(32名)
		内 容: 静岡県の肝炎対策「C型肝炎と肝細胞癌治療の最近の話題」グループワーク
2	2021.9.16(木)	肝疾患かかりつけ医研修会 【WEBライブ配信】
		参加者: 肝疾患かかりつけ医(35名)
		内 容: 「静岡県の肝炎対策」「脂肪肝について」「肝臓がんについて」
3	2021.11.16(火) ～11.30(火)	静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会 【WEB配信】
		参加者: 医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(133名)
		内 容: 「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」 「患者団体の活動」「ウイルス性肝炎の診断と治療」 「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」「拠点病院の活動報告」
4	2022.2.1(火) ～2.14(火)	静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会 【WEB配信】
		参加者: 医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(66名)
		内 容: 「静岡県の肝炎対策」「C型肝炎と肝がん治療の最近の話題」 「医療機関、行政、企業団体に所属するコーディネーターの活動報告」

6

肝疾患連携相談室

【2】患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

1) 市民公開講座『もっと知ろう！肝臓病』

①2021.12.4(土)会場型 参加者:39名

内容:「ウイルス性肝炎に対する大切なおはなし」

「肝臓にやさしい食事について 脂肪肝予防・肝硬変・肝がんになったら」

「肝臓リハビリテーション 今日からできる運動のこつ」

共催:静岡県西部保健所

②2022.2.1(火)～2.28(月)WEB配信 再生総件数:846件

内容:「ウイルス性肝炎について」「脂肪肝について」「肝がんについて」

共催:浜松市、静岡県西部保健所、静岡県中部保健所

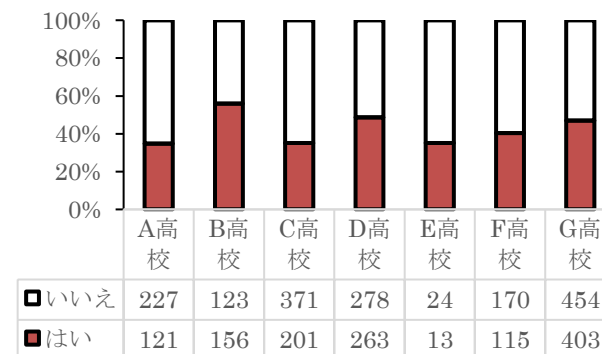
2) 出張肝臓病教室

静岡県内の中学生及び高等学校を対象とした肝臓病教室を7校開催し、理解度及び肝炎ウイルス検査受検/治療勧奨に関するアンケートを実施した。

参加人数(対象)

No.	開催日	開催校	参加人数(対象)
1	2021.5.26(月)	浜名高等学校	366名(3年生)
2	2021.5.28(木)	相良高等学校	364名(全校生徒)
3	2021.5.31(月)	伊豆中央高等学校	591名(全校年生)
4	2021.6.21(月)	静岡東高等学校	610名(1・2生徒)
5	2021.7.15(木)	新居高等学校・定時制	56名(全学年)
6	2021.10.7(木)	藤枝明誠高等学校	330名(3年生)
7	2021.10.8(金)	浜松湖北高等学校	1,060名(全校生徒)

家族に講演内容を伝えたり、リーフレットを見せましたか？



6

肝疾患連携相談室

4 肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

1 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動

1) 一般市民への普及啓発活動

① TVコマーシャルの出演

両拠点病院の川田医師及び玄田医師が、製薬会社のTVコマーシャルに主演し、民放4社(期間:2021.4.5~5.7)において放映された。

② WEB広告

期 間 2021.7.9(水)~2020.11.30(日)

内 容 WEB上(Yahoo・Googleリスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告)に広告を掲載

方 法 WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行ランディングページにおいて、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行った。ランディングページから保健所の連絡先ページを新規追加し、保健所連絡先のアクセス数の把握を行った。

エ リ ア 静岡県内全域

年 齢 15歳~無制限(※GDNディスプレイ広告は、18歳以上~無制限)

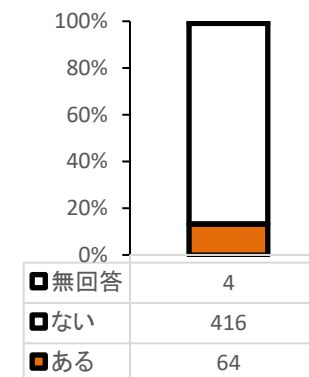
利用者層 タトゥー・ピアスをしようと考えている方

(興味・関心として風俗、ドラッグなど肝炎のリスクが高いと思われる方を含む)

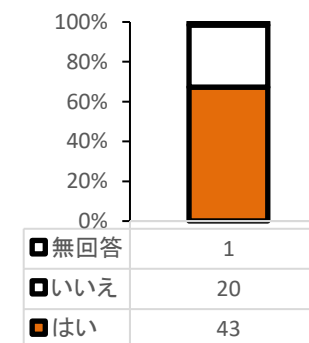
効果検証 浜松市を除く保健所において、HIV等検査申込者に対してアンケートを実施
また、保健所連絡先アクセス数とアンケート結果を検証
(期間 2021年6月から2022年5月末まで)

結 果 HIV等検査申込者に対して、2021年6月~12月に行われたアンケート484名回収し、64名の1割がWeb広告を見たことがあると回答した。64名の内、43名の7割弱がWeb広告を見て肝炎ウイルス検査を受けようと思ったと回答した。

Web広告を見たことがあると回答した比率



Web広告を見て「肝炎ウイルス検査を受けようと思った」と回答した比率



6 肝疾患連携相談室

③院内普及啓発活動

㊦毎月28日の啓発活動

毎月28日(土・日祝日の場合は第四木曜日)を肝炎デーとし啓発活動を実施

期 間 2021.4月～2022.3月

内 容 ポスター掲示及び患者案内システムテロップにて「毎月28日は肝炎デー
今日はみんなで休肝日」と掲示するとともに、「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先の職員は普及啓発用の作成したマスクを着用

㊧肝炎デー及び肝臓週間に関する普及啓発活動

日 時 2021.7.26(月)～7.30(金)

場 所 「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先
5階西・7階西病棟、内科・外科外来、
医療福祉支援センター、入院予約カウンター等

内 容 ㊦「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先等において普及啓発活動用に作成したポロシャツ及びTシャツ、
マスクを着用

㊩昨年誕生した啓発キャラクターの名前募集

募集方法 外来棟へ応募ボックスを設置し、配布物
(瞬間冷却剤及びマスク入れ+マスク)と
共に応募用紙及びチラシを配布する。

応募数 266件
キャラクター名は「かなちゃん」と決定



6

肝疾患連携相談室

- ④御前崎ケーブルテレビによる「WEB配信市民公開講座」の放映
御前崎ケーブルテレビより依頼があり放送が決定した。
番組:お茶の間ステーションプラス 1日3回×7日 21回放送
期間:2021.3.6~12

2) 当院の肝炎医療コーディネーターの育成

中・高校生を対象とした肝臓病教室、市民公開講座へ参加及び毎月28日のイベント、肝臓週間期間中の啓発活動及び打合せ会を3回開催した。

1回目:顔合わせ、2021年度の計画(院内・院外活動)、Coの役割・目標

2回目:勉強会、Coの活動報告の紹介、肝臓病教室の開催準備、2022年度準備

3回目:勉強会、相談室の相談内容紹介、グループワーク
(Co活動指標・2022年度準備について)



(2)「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数:129冊配布

<内訳>医療/行政機関:4施設・80冊、一般市民:47名・49冊

(3)ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

1) 肝炎ウイルス検査陽性者用診療情報提供書の普及啓発活動

目的:医療機関での紹介状作成の負担を軽減し、気軽に紹介してもらうため

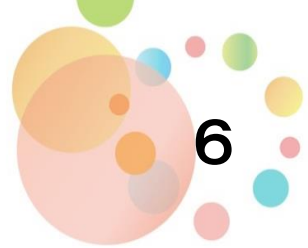
周知:地域連携経由医療機関へ令和3年7月135施設、令和4年3月140施設へ配布

結果:肝臓内科への診療情報提供書件数は159件あり、その内HCV抗体/HBs抗原陽性者の紹介は12件となり、「肝炎ウイルス検査陽性者診療情報提供書」の使用件数は8件であった。

2) 肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

2018.6.1より入院患者を対象に開始し、2019.7月より外来患者も加え実施

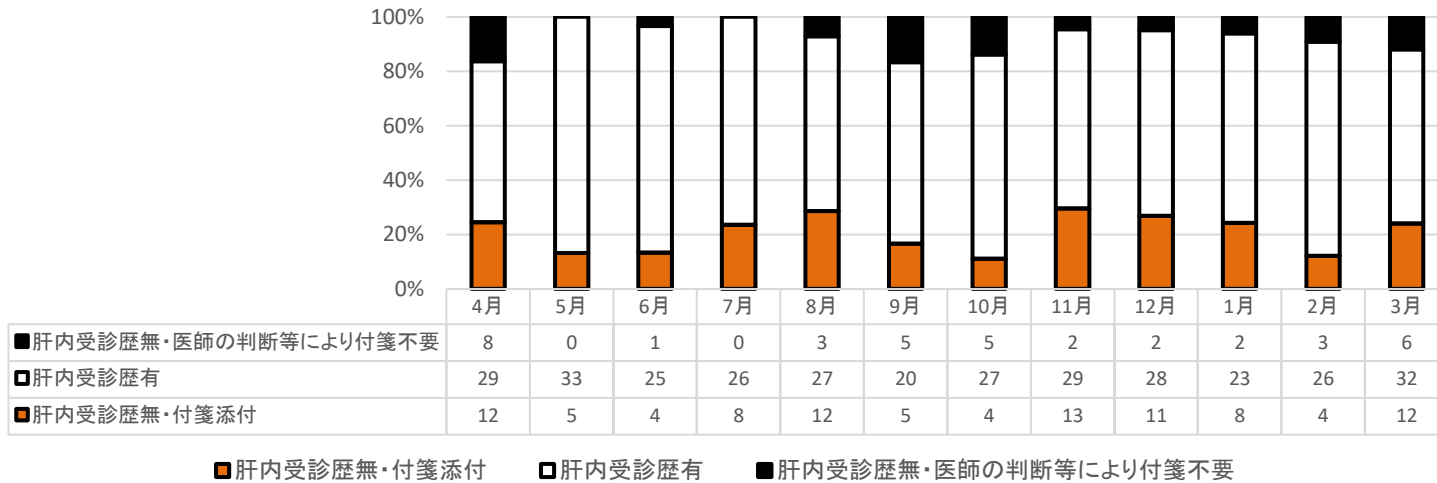
外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼



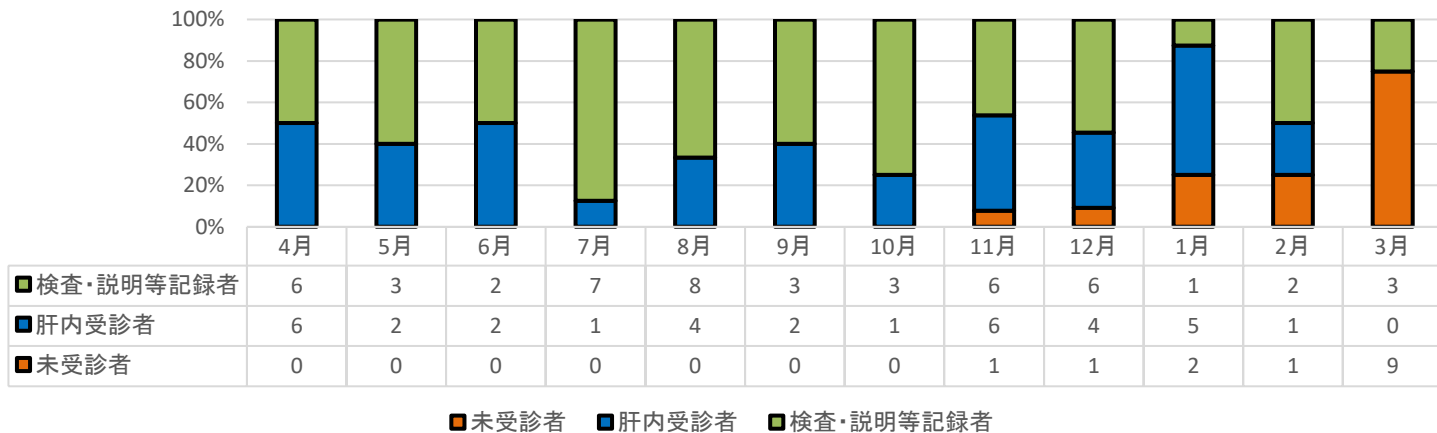
6

肝疾患連携相談室

肝炎ウイルス検査 (HBs抗原・HCV抗体) 陽性者の肝臓内科受診歴無・付箋添付した比率



付箋後の未受診・受診等の比率



＜結果＞肝炎ウイルス検査陽性者はHBs抗原250名、HCV抗体210名の合計460名であった。
 陽性者のうち325名の7割が肝臓内科の受診歴があった。
 98名のカルテに肝臓内科受診・検査の付箋を添付し、34名は肝臓内科受診、50名はRNA検査実施・説明若しくは他院受診となった。未受診者は14名であるが、内9名は3月に付箋添付をしたものである。
 11月～2月まで添付した患者を含め今後フォローが必要である。

医療福祉支援センター長
安田 日出夫

これまで私は医師に囲まれて仕事をしてきました。多くの先生から指導を受けて、同僚や若手医師と診療や研究など多くの議論、実践を重ねてきました。医師以外としては、患者さんと家族、医療側としては主に看護師さんと接することが多かったと思います。研修医の時に、夜勤の看護実習を体験しました。大変だったのですが、これを経験することで実際の看護師さんがやっている一端を身をもって理解することができ、その後の病棟での私の立ち回り方に大きく影響を与えてくれました。

2022年1月から医療福祉支援センターに配属となり、看護師さんはもとより医療ソーシャルワーカー、医事課の方々と接する機会が増え、身近に感じられるようになってきました。以前、小林利彦先生が大学病院副院長であった時のことでしょうか。大学の何らかの会議で何気なしに仰っていた言葉を今更ながら思い出します。「医者からみると医療事務って何をやっているのかあまりわからないのだけれど、実際に医療事務と一緒に働いてみると、医療事務も大変で頑張っているということがわかるんです。」当時まだ若かった私は、後ろの方に座りながら、気にも止めずに聞いていました。今私は、その言葉に共感し、重みを感じるようになりました。

病院がしっかり機能して患者満足度を向上させるには、病院に関わる全ての人連携して協力し合うことが必要であることを再認識させられました。医療福祉支援センターに関わるようになって改めて勉強させてもらっています。本年報は、地域と大学病院の関係者がそれぞれ頑張った上で成り立ったものであると感じています。

